タウン タウン 小麦

特定非営利活動法人
発　行　くまがや小麦の会
発行責任者　日向美津江
ホームページアドレス
http://www.kumagayakomuginokai.jp/
くまがや小麦の会　検索

認定 NPO 法人
くまがや小麦の会
since 2006
事務局　〒360-0801　埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL. 048-521-7801

Interview シリーズ No. 30

ひと彩々

熊谷うちわ祭
令和6年年番町【第壱本町区】
大総代 萩原（はぎわら） 直幸（なおゆき） さん

昭和32年（1957）4月17日生まれ、67歳。埼玉県熊谷市出身。大学院修了後、昭和61年（1986）、萩原文男税理士事務所入所、平成4年（1992）、税理士登録、平成8年度（1996）、(社)熊谷青年会議所理事長、PDC税理士法人設立代表社員社長を経て同会長に就任。平成15年（2003）から熊谷うちわ祭第壱本町区総代を務める。

熊谷うちわ祭は、「関東三の祇園」を冠する熊谷の夏を代表する祭礼であると同時に、中山道熊谷宿の歴史を現代に継承する貴重な文化遺産である。今年の熊谷うちわ祭はどのような物語を紡ぐのだろうか。祭礼関係者全体を率いる年番町・第壱本町区の大総代・萩原直幸さんにお話を伺った。

泉州楼・萩原半次郎の系譜

萩原大総代は、熊谷うちわ祭の名称「うちわ」の由来と深い繋がりがある。その歴史を簡単に紐解いてみたい。

明治34年頃、泉屋横町（本町と筑波町の境界付近）の料亭『泉州楼』（後に松泉閣に改名し移転）の主人が、赤飯の代わりに、江戸日本橋の製造元「伊場仙」（いばせん）から買い入れた名入れの「渋うちわ」を配ったところ、これが好評となり、他の店でも、屋号や紋章などを印刷したうちわを配るようになったとされる。

この泉州楼の主人の名は萩原半次郎。まさに、萩原大総代の曾祖父にあたる人物である。半次郎の発案を機に、祭礼行事の特色に「うちわ」が象徴的に加わり、「うちわ祭」という名称がブランド化したと考えられる。

萩原家の系譜は第壱本町地区へと継承され、そして晴れてその子孫が大総代に名を連ねたことは、一つの宿命として注目を集めている。

再生と「魁（さきがけ）」

ポストコロナにおける熊谷うちわ祭のあるべき姿とは何か。萩原大総代は祭礼の責任者として絶えず模索を続けてきた。コロナ禍の影響を受けてきた数年間の状況から脱し、旧来の方法を重んじた上で、新たなる祭礼の形態やシステムの構築に力を注いできた。

萩原大総代は「熊谷の活力の源と言われている熊谷うちわ祭を4年間のブランクをはねのけて完全復活させていく決意のもと第壱本町区一丸となって邁進したい」と語り、「魁としての年番に相応しい形での完全復活を目指していきたい」と力を込める。

『継往開来』

愛宕・八坂神社の茂木治夫宮司から本年度大祭に向けて大総代に示された『継往開来』という一語。これは「先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く事」を意味する。すなわち、半次郎の時代から今に引き継がれる祭礼の魂や想い、これらをいかに継承するか、発展させるかという意識と共に込める。

萩原大総代は、『継往開来』の精神のもと、熱中症予防と対策の徹底、雑踏警備の徹底、持続可能なうちわ祭りの運営方法の構築などを解決し、皆様方とともに明るく楽しい祭の実現に努めたい」と意気新たに、強い視線を前へと向けていた。

萩原大総代は郷土の名門税理士として活躍する一方、温和な人柄と豊かな発想力で知られ、「萩原版うちわ祭」としての演出が期待される。

解説・熊谷うちわ祭の歴史

祭礼の起源は、文禄年間（1592～）に京都八坂神社を勧請した愛宕・八坂神社の例大祭であり、その後、江戸時代中期の寛延3年（1750）には、当時小町区ごとの神事祭礼を宿場町全体の統一祭事にする上申書が出されたことを機に、祭礼行事は拡大し、現在に結び付く大型が作られたと考えられている。

祭礼の中興とされる天保年間（1830～）には、神輿が新調され、祭りの原点ともいえる全町合同の神輿渡御が開始。祭礼の日に赤飯を炊く風習に基づき、この赤飯振舞いが名物となっていたと伝わる。熊谷駅が開業した明治10年代後半には、東京の浅草から熊谷に向けて多くの「うちわ」が鉄道を通じて、配送されていた記録が残されている。

そして、萩原半次郎によるうちわのブランド化を起点に「熊谷うちわ祭」という名称が全国へと広まったと考えられる。その後、年番町制の確立や旧石原村の参加、熊谷空襲の悲劇と戦後復興などを経て、熊谷うちわ祭は、現代の熊谷を進化させる原動力となった。そして、神事と神輿渡御、絢爛豪華な山車屋台祭としての特色が融合し、県内最大規模の夏の風物詩となった。（Y）

麦笛

日向美津江

「屋久島 永田浜の海亀の産卵観察会」

◆熊谷の文化団体に登録されている"コールNK"という混声合唱団がある。設立2012年、団員20名で活動を続けている。NKは年金との事。命名の意味を伺い、会の雰囲気さえ伝わってきた。このグループが屋久島混声合唱団とコラボした音楽会を企画した。屋久島との繋がりはNKの代表が20年前、屋久島に別荘を持つ機会を得たことにより、屋久島と熊谷の交流基地となった。

◆屋久島町の荒木耕治町長（74歳）は3期目庁舎を公募でデザインを募集、東京の坂田遼太郎設計事務所が選ばれた。2019年竣工の木造、地上2階建、延床3629㎡屋久杉の森の中に居るような感覚を受けた。このホールがまた素晴らしく八角形の天井は杉で組まれている。荒木町長は「設計料が高かったので、町民から文句を言われた」と一言。5年が経過し、庁舎は屋久島の名所となった。このホールで音楽会開催を願っていた、今回の屋久島混声合唱団との合同合唱会が実現され、応援団として参加することが出来た。

◆日本の海で産卵する海亀はアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種類。屋久島の永田浜は海亀の回遊する北太平洋で最も多くアオウミガメの産卵が行われ以来、海外からの観光客を含めて5000人位の人が訪れている。4月下旬から8月上旬20時から翌朝5時は永田浜へお立ち入りは禁止されている。例外としてスタッフよる観察会に参加することにより、海亀の産卵が観察出来る。永田浜の浜辺に観察会事務所が設営されている。申し込みを済ませて事務所に集合。事務所の方の説明を伺い、浜辺に海亀上陸して、産卵を始めた報告を待つ。海亀はデリケート産卵を始めると産卵を続ける。21時30分待機している事務所に連絡が入り、50人の観光客は産卵場所に向かった。満天の星空に北斗七星、月の光が花崗岩の白浜に反射して、人の顔が判る。中腰にならないと次のカメが上陸してこない。海亀が産卵用に掘った穴に50個ほどの卵を生み、終わると後ろ足で砂を掴み穴を埋める。穴の上をきれいに手足で掃きカモフラージュ、更に2Mほど先に穴を思わせるくぼみを作り、砂だらけになり、海に帰っていった。2時間のスペタクルであった。

◆自然遺産の世界遺産に登録された屋久島の永田浜で出会った海亀の産卵。事務局の電話を記しておきます。0997－45－2280　機会を得て行ってみて頂きたい。観察会に参加した観光客は日本人は私たち4名を含めて7人、43名は海外からの観光客だった。

小麦の会　活動報告

1/19(金)社会福祉法人つゆくさ「成人を祝う会」訪問　わーくほーむ結

久しぶりの訪問となった「成人を祝う会」は、昨年新築移転した妻沼のわーくほーむ結で開かれました。式典では当会の日向会長から成人を迎えた利用者さんにプレゼントをお渡ししました。利用者さんたちと一緒にバウンドケーキを50個ほど焼成し、昼食後はスライドショーを観たり、合唱したりと温かくて楽しい時間でした（R）

4/27(土)第18回友山まつり　根岸家長屋門

風もなく穏やかな日になった当日は、長屋門前の芝生広場に地元野菜や和洋菓子、たこ焼きなどのお店が並び、綿菓子店は行列でした。ダンスや音楽、剣術などのパフォーマンスが行われ、五家宝の配布やスタンプラリー、サイコロゲームも楽しめるイベントでした。当会ブースも多くのお客様にお立ち寄りいただき、おかげさまでパンは完売。バウンドケーキも好評でした。(R)

熊谷の道端から ～ゆるゆる散歩雑記帳～

籠原夏祭り

熊谷駅周辺がうちわ祭ムードに染まる頃、籠原方面でも7月 19 日･20 日の2日間に渡って夏祭りが開催される。「本町」と「籠原町」の2地区が、うちわ祭と同様の三輪屋台を曳き回し、小気味の良いお囃子を響かせる。

クライマックスには、行宮を設置した駅北口前に神輿と屋台が集結して盛り上がりを見せるが、19 日早朝に神事が行われる南口前の諏訪神社や、そこから行宮に向かう神輿渡御にも注目を。白丁を身にまとった担ぎ手が静かに神輿を進める様は清々しく、厳かに祭りの始まりを告げている。(N･T)

文化の薫り熊谷偉人伝 ⑤

斎藤氏の伝説

弥藤吾氷川大神社の神事

利根川沿いの田畑が広がる場所に「太平記絵巻女沼古戦場碑」がある。この場所は、延元2年・建武4年（1337）12月13日に南朝側の「北畠顕家」の奥州軍と北朝「足利義詮」「上杉憲顕」らの鎌倉軍が戦った「女沼の合戦」の跡地とされる。両軍は利根川を隔てて対陣し、「斎藤別当実盛」の子孫にあたる、南朝側の「斎藤実永（さねなが）」「実季（さねすえ）」兄弟が先陣を競い、増水した川に馬を乗り入れ溺死したと伝わる。しかし、この果敢な行動に鼓舞された奥州軍が対岸へ押し切り、不意を突かれた鎌倉軍を敗走させたという伝説が残っている。また、同じく妻沼にある地名「弥藤吾」も、斎藤氏と関係があると推定される。実盛の子の斎藤五の子孫「斎藤弥藤五（吾）実幹」（長井太郎義兼の養子）から付けられたと伝わる。妻沼の地には斎藤別当実盛から始まり斎藤氏の数々の伝説が受け継がれている。（Y）

活動予定

11月 第20回熊谷市産業祭　熊谷スポーツ文化公園

あの町この店

手作りハムとパンの店 こぶたのしっぽ

店主 高見 謙一さん

比企郡ときがわ町日影 903-1　0493-81-7530
営業時間 10時～18時　定休日　月曜日、火曜日
https://www.instagram.com/kobutanoshippo2016/
https://shop.kobutanoshippo.com/

～ときがわ町にエネルギーを感じて～

ときがわ町の山々を見渡せる場所にある、手作りハムとパンの店。こぶたのしっぽ。

オーナーの高見さんは高校時代から畜産を学び、養豚業を経て有名店でハムソーセジ作りを学び、2016年にここにしかないエネルギーがあると、ときがわ町にお店をオープンしました。こぶたのイラストの看板が可愛いい白を基調としたお店はセンス抜群です。

店内にはハード系からソフト系まで様々な種類のパンやサンドイッチ、手作りハムやソーセジ、桜のチップでスモークしたベーコンやチキンなどが並んでいます。とくに目を引いたのは具がたっぷりのたまごサンドとコンビーフサンド。そして注文してから作ってくれるホットドッグは、お店の前のテラスで頂けます。自家製ジンジャエールと一緒にいかがでしょうか。

～こぶたのしっぽの想い～

生産者から生活者まで全ての人の笑顔が見られるお店にしたい。そんな思いから、地元の農産物、玉子、お茶などを紹介販売するコーナーが設けられています。また、オンラインショップで買えるギフトセットは、季節ごとに内容の変わるものもあり、ギフトが届いたその先にも笑顔が届くようにとの思いが詰まっています。

朝5夜から夜7時頃まで、ご家族の手も借りて肉を切り、粉を混ぜ、誰かの明日への糧となる、そう願いながら作っている商品の数々。皆さんも是非お試しください。

次はドライブがてらランチをしに行ってみたい、そんな気にさせるお店です。（K）

追悼　前小布施町市村良三町長　バスツアー

令和5年6月14日に亡くなられた前小布施町市村良三町長様(享年75歳)を追悼バスツアー募集致します。
日時:令和6年10月21日(月)
熊谷発8:00→小布施10:50　供花　北斎館　お昼(小布施堂)
小布施発13:00→善光寺13:40　回廊巡り→善光寺発15:10
→熊谷着18:00
会費:8000円(供花、北斎館、お昼、回廊巡り、バス代含む)
申し込み先:小麦の会事務局　FAX:048－521－7900(日向)

■ 会員募集
賛助会員年会費 10,000円　一般会員年会費 一口1,000円
お申込み:TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900

次号のお届けは2024年12月の予定です。
編集室　TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900